

やいづ自慢  
～高貴光齡者を目指して～

提 言 書

平成 28 年 12 月 21 日

焼津市議会市民厚生常任委員会

委員 長	池谷 和正
副委員 長	小柳津 健二郎
委 員	石田 江利子
	川島 要
	杉崎 辰行
	石田 善秋
	深田 百合子

## I. はじめに

現在、わが国では、高齢化が急速に進行し、総人口に占める65歳以上の高齢者人口の割合は27.3%となり、4人に1人が高齢者という「超高齢化社会」を迎えています。

このような状況においては、高齢者の動向が社会全体に大きな影響を及ぼすことから、今後、高齢者に対する施策の推進が重要となります。

近年、国においては、平成26年6月に成立した「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」のもと、医療と介護の連携により高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送るための「地域包括ケアシステム」の構築などが推進されており、本市においても、「第7期焼津市高齢者保健福祉計画及び第6期焼津市介護保険事業計画」を平成27年3月に策定し、高齢者福祉施策の推進を図っているところであります。

こうした状況を踏まえ、市民厚生常任委員会では、高齢者福祉をテーマとした政策提言を検討するため、本市における高齢者福祉施策の具体的な取り組み状況について、市当局へのヒアリングを実施し現状や課題を把握するとともに、他自治体における高齢者福祉施策の先進的な取り組みについて視察を実施するなどの調査研究を行ってまいりました。

まず、提言にあたっては、高齢者・後期高齢者層を「**熟年層**」と呼び、高齢者を「**光齢者**」、後期高齢者を「**高貴光齢者**」と意識することとしました。

今後20年以上、光齢者が増え続け、それを支える生産年齢人口は低下の一方であり、このままでは、要介護者数の増加も含め医療費・介護費の増加は避けられません。そこで、どうしたら医療費や介護費がかかる光齢者を増やさないかをポイントにして、3つの柱を立てました。

## 1. 「元気な熟年（光齢者）であるための支援」

健康管理や身体運動など自ら取り組む身体づくりや、元気だから出来る活動など、生きがいを持った生活が送れるよう提案します。

## 2. 「要支援に近い光齢者の支援」

要介護状態になることへの予防や悪化の防止を目的に、リハビリテーションの理念を踏まえながら、単に運動機能や栄養状態の改善だけを目指すものだけではなく、生活の質を向上させることが出来るよう提案します。

## 3. 「介護を必要とする光齢者の支援」

介護保険制度が開始され16年が経過していますが、依然として特別養護老人ホームなど施設利用が必要とされる光齢者の待機者は多く存在します。介護現場の現状を把握するために市内介護サービス事業所を対象に実施したアンケート調査及び施設見学により得られた要望や意見等から、光齢者も介護サービス事業所も持続可能な安心介護サービスにしていけるために提案します。

本提言書は、この3つの柱を基本とし、本市における、それぞれの地域色や個の持つ特色を生かした焼津式福祉モデルを構築するため、今後を見据えた政策を提案するものです。

## II. 提 言

### 1. 生き生きと健康で明るく過ごす日々のために

#### <現状>

焼津市の人口構成は、全国的傾向と同様に、熟年層の経年増加が著しいことが知られている。

はじめに述べたように、今後 20 年以上、光齢者は増え続け、それを支える生産年齢人口比は低下の一方である。このままでは、要介護者数の増加も含み、医療費・介護費の増加は避けられず、財源にも限界がある。そこで、最重視すべき事は、医療費・介護費のかかる光齢者を増やさないことである。

また、いわゆる出産適齢期の女性人口も減少するので、将来の人口に影響を持つ出生者数も期待は持てなく、医療関連費などは一層の年齢別偏りを生じることになる。

(人口構成予想比)

年 焼津市人口	総人口比 65歳以上	総人口比 75歳以上	光齢者対 生産年齢人口	20～39歳 女性人口
2010年 143,249人	1:4.3	1:9.2	1:2.7	17,087人 11.9%
2016年 141,540人	1:3.6	1:7.7	1:2.1	14,073人 10.1%
2020年 138,630人	1:3.4	1:6.5	1:1.9	13,900人 10.1%
2030年 129,978人	1:3.1	1:5.0	1:1.8	12,700人 9.7%
2040年 119,186人	1:2.8	1:4.9	1:1.5	11,400人 9.5%
‘10-’40 ▲24,063人				▲5,687人 ▲33.6%

(出所：総務省国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口)

## <課題>

どうすれば「元気な光齢者」でいられるか。そのためには、自らの健康を管理するとともに、身体運動や頭脳運動などにより体と脳を鍛えていくことが必要である。また、自らの存在価値を認識し目標を持って生活すること、趣味や働くことにより自分らしさを保ち生活意欲を向上させることなども有効であるといえる。これらを実践する取り組みは、現状、市及び各地域で実施されているものもあるが、全てが市で集約的に把握されていない。

## <提言>

「元気な光齢者」でいられるために、以下項目を明確にし、市全体として取り組むべきものとして提言する。なお、全ての項目において、参加者や実施者などにポイントを付加するなど、インセンティブを与えることにより継続的な参加や実施に結びつく仕組みを構築すること。

### 1. 健康管理

#### ① 集団検診の受診率向上

病気の早期発見治療による健康維持のため、検診受診、早期診療を推進する。受診率上位自治会の表彰や地域による光齢者宅への家庭訪問を実施する。

#### ② 有酸素運動普及

生活習慣病予防のために、ウォーキング指導講座を開設するとともに、各自治会・町内会単位でウォーキング指導を実施する。また、ウォーキング大会や市内循環バスによるウォーキングラリーなどを開催する。

### 2. 身体運動

#### ① 筋力の維持・向上

特に下半身、大腰筋強化を目指して、ウォーキング指導講座と筋力維持指導講座を開設し、各自治会・町内会単位で適切な筋力トレーニング指導を実施する。また、ラジオ体操への参加を推進する。

### 3. 頭脳運動

#### ① コミュニケーションとカルチャーによる外出意欲向上

会話と学習意欲向上による脳への刺激のために、公民館講座などへの参加を推進し、講座発表会の開催を実施する。

## ② 脳活性化

脳機能の維持向上、前頭前野の働き活性のために、各脳トレーニングを自治会・町内会単位で実施し、また、小中学生への光齢者による体験講座、公民館・町内会館などを利用した3分間スピーチ等の実施、読み聞かせや簡単計算など学習療法を含んだ集まりの開催をする。

## 4. 存在感

### ① 他人から認知される

人のために役立つという性善意識の保持のために、前述したとおり、積極参加などを促すためのポイント制度を創設する。また、ボランティア、学習指導者の育成のために定例講座の開設、光齢者それぞれのボランティア活動などのプロフィールを調査・データ化し、必要なときにボランティア等の要請ができる体制づくりをおこなう。

## 5. 目標設定

### ① 明確な目標を持つ

前向きに意欲的に生きるために、目標を持って生活・活動している光齢者の実例を広報する。また、広報などで目標宣言者の公募、資格等挑戦者への情報提供及び合格者への金銭支援制度を創設する。広報だけでなく、公民館や町内会館を利用した紹介活動をおこなう。

## 6. 趣味実行

### ① 自分らしくいる

楽しみとわくわく感を持ち続けるために、自分の好きなことや興味のあることに触れる機会の提供、多くの活動や趣味などの事例紹介を広報するとともに、それらの発表の場を提供する。

## 7. 小遣い稼ぎ

### ① 働く意欲と生活の張り

報酬はささやかな喜びであり、その励みのために、市内で行われている有償ボランティアの紹介、無人販売者の把握・紹介及び無人販売者グループ化への指導と助言などをする。また、軽トラ市など個人小市場の場所と機会提供をおこなう。

## 2. 光齢者の生きがいつくりと介護予防で「健康寿命」を延伸！

### <現状>

介護予防の対策として、各地域では「地域ふれあいサロン」や、生きがいつくりを進める活動の場の提供、さらに市が主体となってインストラクターの指導による水中健康教室や、筋力アップ・脳活性化への健康教室を開催している。

### <課題>

介護予防対策としての様々な取り組みが実施されておりますが、現実的には光齢者が参加しやすい環境にはなっていない為に、参加している人数が少なく、ある程度の限定された方々しか参加できていないという現状がある。各地域において介護予防活動推進の担い手となるリーダーが不足しているため、まだまだ元気で社会貢献の出来る光齢者が、時間の有効利用が出来ないでいる。

### <提言>

#### 1. 介護予防出前講座の推進

光齢者が要介護状態になることへの予防や悪化の防止を目的に、リハビリテーションの理念を踏まえ、単に光齢者の運動機能や栄養状態の改善だけではなく、生活の質の向上を図ることを目指す。

#### 2. 介護予防リーダー養成事業

各地域の介護予防活動の担い手となる「介護予防リーダー」を養成していくことで、より細かな地域ごとに介護予防出前講座を推進する体制を作っていく。

#### 3. 介護ボランティア事業の創設

光齢者の社会参加・地域貢献を積極的に支援し、生きがいつくりや健康増進につなげる。

内容としては、65歳以上の光齢者が、市が指定する研修の受講を経て、社会参加やボランティア活動を行った場合に、活動を評価してポイント化し、貯まったポイントを換金または寄付ができるという事業。

### 3. 介護を必要とする光齢者の支援について

#### (1) 実態に合った特別養護老人ホームの待機者解消のために

##### <現状>

光齢化が進む中、2016年1月現在、特別養護老人ホームの待機者は全体で454名、入所必要度が高い人は27名である。本市は第6期介護保険事業計画（2015～2017年度）の施設サービスにおいて、2019年度特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）100床（大富地域）、2018年度介護老人保健施設100床（浜当目地域）、2019年度介護老人保健施設100床（大井川地域）、2018年度介護付有料老人ホーム（介護専用型特定施設）50床（浜当目地域老健施設に併設）等の施設整備を行うとしている。一方、2015年度より光齢者増に伴う法改正が行われ、特別養護老人ホーム利用者の条件は原則要介護3以上、一定所得者（単身者では所得280万円以上）の利用料は1割から2割負担となった。（2割負担の対象者は500名余）

##### <課題>

2015年度の特別養護老人ホーム利用者数の計画値は5,280人分で、実績値は4,980人（達成率は94.3%）、300人分が未達成となっている。また、市内の特別養護老人ホーム7施設は、計定員410床：4,932人分（410×12カ月）、定員状況は、40床：1施設、50床：4施設、80床：1施設、90床：1施設である。

今回100床の新設整備が計画されているが、市内には100床の特別養護老人ホームは1つもない。しかも法改正によって、利用者は利用基準の厳しさと負担増に苦しみ、介護事業所は報酬単価削減等により先の見通しが持てない不安定な状況である。

##### <提言>

1. 実態調査を行い、市内特別養護老人ホームとの連携で特別養護老人ホーム増築整備を進め、待機者解消を図ること
2. ショートステイの利用改善（その日にベッドの空きがあつたら、柔軟な対応で受入れ、長期入所の対応として短期入所ベッドを長期入所へ転換・独居のショートステイ利用者のために30日越え減算に市が支援を行うこと）



3. 低料金の「多床室」を望む方へ、市独自補助で「多床室」を位置づける
4. 防災機器・備蓄品・避難誘導設備に対する市の助成制度の創設
5. 利用者負担 2 割で支払い困難な方に市独自の軽減策をすること

## (2) 安心して利用できるよう介護事業所の雇用改善のために

### <現状>

市内には居宅介護サービス、施設介護サービス合わせ 87 の介護事業所がある。(休止、廃止の介護事業所もある) 介護従事者は、ケアマネージャー・看護師(准)・介護福祉士・介護士(ヘルパー 1・2・3 級) などであるが、離職者が絶えず常に介護従事者の募集をかけている。

### <課題>

求人募集をかけても介護従事者の成り手がなく、また就職してもすぐやめてしまい慢性的な人手不足に喘いでいる。処遇改善加算がされたが、対象の事業所は一定の給料以下であり活かされない。

### <提言>

1. 返済不要の奨学金制度の創設
2. 市内介護事業所に就職する若者に家賃補助等支援をすること
3. 介護実習に対する市の支援をすること
4. 有償ボランティア制度の創設
5. 小・中学校から介護の現場体験に市の支援をすること
6. 研修制度を位置づけ、市の講師派遣事業をおこなうこと

### Ⅲ. 政策提言に関する活動経過

	日 時	活 動 内 容
1	平成27年 3月13日	研究調査実施の決定
2	4月3日	研究調査テーマの検討
3	5月14日	千葉県柏市視察（長寿社会のまちづくり）
4	5月21日	研究調査テーマの検討
5	7月21日	研究調査テーマの決定
6	8月21日	提言内容の検討
7	9月18日	提言内容の検討
8	10月6日	現状や取り組みについて市当局より説明を受ける
9	10月13日	福岡県北九州市視察（介護支援ボランティア事業）
10	10月14日	福岡県古賀市視察（高齢者外出促進事業 等）
11	10月15日	山口県周南市視察（もやいネットセンター推進事業）
12	10月21日	提言内容の検討（資料配布）
13	平成28年 1月21日	提言内容の検討
14	3月10日	提言内容の検討
15	4月3日	提言内容の検討
16	5月17日	北海道登別市視察（認知症高齢者等GPS貸与事業）
17	5月18日	北海道札幌市視察（高齢者地域貢献支援事業）
18	5月19日	北海道千歳市視察（千歳市介護予防センター）
19	6月20日	提言内容の検討
20	6月27日	市内介護サービス事業所への現状調査（アンケート）
21	7月21日	提言内容の検討
22	8月1日	市内介護サービス事業所現地調査
23	8月21日	提言書のとりまとめ
24	9月27日	提言書のとりまとめ
25	10月21日	提言書のとりまとめ
26	11月14日	提言書のとりまとめ
27	11月30日	提言書のとりまとめ
28	12月21日	定例全員協議会で提言書の報告、市長へ提言書提出